

令和5年度 学校評価（具体的実践の成果と課題）

学校教育目標	本校教育は、宮崎県教育基本方針並びに宮崎県人権教育基本方針に基づき、確かな学力を身に付け、心豊かな人間的魅力にあふれた、社会に貢献できる「有為な人材」を育成することを目標とする。					【重点目標】～可能性を伸ばし 生徒に自信と誇りを一人一人を大切にしている指導を通して～ ○カリキュラム・マネジメントの推進 →社会に開かれた教育課程の実現、学力の向上を図るための授業の工夫・改善、ICT教育の推進（教材の共有化） ○魅力ある学校づくりの推進 →探究活動の推進、普通科の特色創出、地域との連携、入学したい・卒業して良かったと思える学校 ○当たり前のことを当たり前に行っている生徒の育成 →挨拶・身だしなみ・清掃等の指導の徹底、自ら考えて行動する力の育成、規範意識の醸成 ○生徒一人一人を輝かせるための工夫 →学校行事や生徒会活動、部活動の充実・活性化を通じた生徒の自主性の育成や自己肯定感の醸成 ボランティア活動の推進、人間関係づくりの取組の推進、通級による指導の充実 ○生徒の多様な進路目標の実現 →授業の充実・改善、TKJタイムの内容充実、多様な進路に対応する指導体制の充実 ○風通しのよい、働きやすい職場環境づくり →職員間のコミュニケーションの促進、相談しやすい環境づくり、組織的対応 働き方改革の取組の推進、協力し合う環境		
学校の使命	校是「自立」「友情」「前進」に基づき、確かな学力及び規範意識を身に付けさせるとともに、生徒の適性を生かした進路実現により、地域から信頼される学校づくりに取り組む。							
基本方針	【めざす学校像】 ：生徒一人一人を大切に、互いが尊敬し合い、支え合い、高め合う中で、確かな学力と豊かな人間性、規範意識を着実に身につけさせ、生徒の能力・適性を生かした進路を実現することにより、生徒・保護者・地域の願いに応え、信頼される魅力ある学校。 【めざす生徒像】 ：校是「自立」「友情」「前進」の具現化を図り、心身ともに健康で、自己の成長・社会への貢献を目指して学び続ける、心豊かでたくましい生徒。 【めざす職員像】 ：教育の専門家として、授業力や生徒指導力等の向上において学び続け、生徒・保護者・地域の願いに応えるために「あつい」（熱・厚・篤）指導を行う職員							
具体的実践	達成手段	1学期	2学期	総括	成果（□）と課題（■）	学校評議員及び 学校関係者評価	コメント	
1 学力の向上	1 学習力(学びに向かう姿勢)の向上 (TKJタイムの充実) 2 家庭学習量アップと基礎基本事項の定着 3 アクティブラーニングによる授業展開の工夫 4 少人数指導によるきめ細やかな指導の改善 5 資格取得指導の充実 6 読書活動の工夫	2.4	2.7	3.3	□職員研修、オンライン授業、デジタル採点システムの試行開始等でICT教育の推進を図ることができた。 □1年生1学期、2年生3学期は生徒全員TKJタイムに参加し、デジタルドリル等を使用して、基礎力養成を実施できた。また、TKJタイム（発展ゼミ）を活用して、各種検定試験の対策を実施できた。 □家庭科技術検定取得においては、4冠王1名、3冠王2名という実績を残すことができた。 ■TKJを活用した検定指導の時間確保が難しかった。指導者ごとに調整しながら指導にあたった。 ■学習習慣が身につけていない生徒が自学自習できるようにしていく手立てが十分ではない。	3.2	□デジタルドリルやオンライン学習の日など積極的なICT活用や研修に努めている。デジタル採点システムの試行などを通して、教育に充てる時間を確保しようとする取組は評価できる。 □各種検定試験の対策がされており、家庭科技術検定・英検・漢検などの実績は喜ばしい成果だ。 ■インターネット使用時間の増加が懸念される中、アプリなどを活用した楽しい学習方法の導入が有益かもしれない。 ■資格取得のメリットをもっと生徒にアピールするとよい。	
2 自尊感情の醸成 規範意識の確立	1 マナー指導・清掃指導徹底と挨拶の励行 2 学校行事等を通じた自己有用感の育成 3 校外の各種大会への参加促進 4 ボランティア活動や地域貢献活動の推進 5 人間関係づくりの取組の推進	2.5	2.8	3.2	□生徒会・各種委員会の活動が活発で、文化祭・体育大会では、自分の役割を自覚し責任をもって果たすことができる生徒が増え、協力して行うことができた。学校行事の満足度は非常に高い。 ■交通事故が多発した。 □部活動に積極的に参加することで生活面の改善が図られた生徒も見られた。 □学年に応じたピア・サポート授業を実施することができた。各クラスの実態に即した工夫をして取組めた。 ■ピア・サポートは、生徒の実態を踏まえた指導内容や、ICT活用した資料（スライド）や感想文記入など検討する必要がある。 □美化勤労者賞者を推薦することで模範生となり清掃活動に勤しむ生徒が増えた。 ■人間関係がこじれたときの対処方法について、指導法を確立することが急務である。 ■遅刻・欠席者の減少に向けて、今後、何らかの方策が必要である。	3.0	□生徒会活動やボランティア活動が盛んな背景にはピアサポートや教育相談などのきめ細かな生徒対応が成果として出ていると感じる。 □文化祭や体育祭の満足度が高いことは素晴らしい。 ■交通事故の増加が懸念される。良い交通マナーは地域から評価されることにつながるという視点からも、生徒に考えさせてほしい。 ■生徒間の意識格差や参加状況等の差が小さくなると、全体的な規範意識の向上につながるのではないか。	
3 キャリア教育の推進	1 3ヶ年の系統的な指導の構築 2 企業や上級学校との連携による意識啓発 3 多様な進路希望への早期対応と目標達成 4 保護者や卒業生の活用 5 インターンシップの改善充実 6 コミュニケーション能力の育成 (自分の考えを自分の言葉で表現できる)	2.5	3.0	3.3	□生徒の進路意識を高めるために、ジュニアワークや3年生の話を聞く会等の進路指導部企画を実施できた。 □専門学校や企業の方を招いての各種講座を実施することができた。 □地域の企業、幼稚園、南九州大学の先生方などの御協力のもと、学び多い活動ができた。 ■生徒にもっと夢を持たせる指導機会を増やしたい。 □インターンシップでは、社会性を身につけなければならない機会ができ、社会生活を送る上で必要なスキルに気付くことができた。 □社会人としての講座を設け、社会人としての心構えを考える機会を作ることができた。	3.3	□地域の学校や企業の資源を積極的に活用したキャリア教育により生徒の意識も向上している。 □卒業後の進路が様々な本校の特徴に合わせて、インターンシップや進路ガイダンスが行われているところが素晴らしい。 □目標や夢の発見から進路目標の達成につなげていくという流れで、高校生活の3年間を見通した取組ができていたことは非常に良い。 ■生徒に近い年齢の社会人の話を聞かせることで、早期に進路意識を高められるのではないかと。	
4 信頼される学校づくり	1 家庭、地域、同窓会との連携強化 2 地域との交流促進 3 戦略的な情報発信（HP、地域への広報等） 4 PTA活動の充実 5 学校関係者評価の適切なフィードバック 6 教職員の矜持によるコンプライアンス意識の保持	2.7	2.8	3.2	□ホームページを頻繁に更新しており、アクセス数も昨年度に比べて格段に多くなってきている。これからも行事関係については早めの情報発信に努めていきたい。 □一日体験入学は、参加中学生の満足度が昨年度に引き続き高かった。参加できなかった中学生もおり、志願者数を増やすためには2回目（10月末）実施も考慮していきたい。 □学習・研修担当のPTA役員を中心に、3年振りにPTA研修会を実施することができた。 □保護者への連絡は早めに、紙面・メールにて行った。 □年間を通して正門付近の緑化を推進できた。	3.3	□ホームページを通して学校での様子や活動がよくわかり、良いPRになっている。 □「ならでは」の魅力を手手に発信し続けたことが、体験入学の満足度や志願者数増につながっており、今後も特色を発信してほしい。 ■「高城」という地域とより連携を深めていくと更に学校への協力や信頼が高まるのではないかと。 ■高校生の柔軟な発想で参画できるように地域へ働きかけを行ってみたいかどうか。	